

一石二鳥の1日！！

文京国際交流フェスタにボランティア参加して

若松 晴美

日韓アジア基金を知ったきっかけは昨年のグローバルフェスタでした。子供の教育に関心があった私は、カンボジアの子供たちに教科書を！！というフレーズとたくさんの可愛い子供たちの写真が飾られているブースに自然と足を止めました。そして、そこにいたスタッフの大澤さんをたくさん質問攻めにしてしまいました。(笑) 嫌な顔ひとつせず私の質問に熱心に答えて下さった大澤さんの印象がとても強く、また、設立者の思いである、『日本と韓国の若者が一緒になってカンボジアの支援をしていくことにより、歴史の壁を越えていきたい！』という理念にもとても感動し、たくさんのブースの中でも最も記憶に残りました。

先月建設ボランティアでカンボジアを初めて訪れ、仏教に根付いた人々の温かく穏やかな振る舞い、そして微笑みに魅了され、カンボジアが大好きになりました。同時に、ほんの一部ではありますが途上国の現状を目の当たりにしてさまざまな心の葛藤がありました。なんで日本とこんなにもちがうんだろう、自分はどんなに恵まれて生きてきたのか。カンボジアの歴史や現状を知れば知るほどこの人たちのためにこれからも何かをしていきたい、



と強く思いました。帰国後は、「カンボジア ボランティア」を検索ワードにして探していたところ、近日開かれる文京区の国際交流フェスタでブースを出すある団体の1日ボランティア募集の求人を見つけました。団体名は、記憶に強く残っていた日韓アジア基金でした。

ブースの飾りつけも終わり、販売する韓国茶の準備中です

当日は、大学生と社会人のボランティア参加者が半数ずつくらいで活動し

ました。バックグラウンドはさまざまでしたが、ボランティアに参加したい！という気持ちを持った仲間の集まりなのでみんな和気あいあいとしていました。4種類の韓国茶を売ることがメインに、募金も募り、団体の活動紹介もしていく…意外と難しく、ちょっとこ

つがいるなと思いました。募金活動は学生時代に経験があったのですが、場所やタイミングの関係もあり、効率よく声を出すことができませんでした。いかに短い言葉で活動の真髓を伝えるか…改めて学ばせてもらいました。

反省点もあがった一方で、ベトナム、ミャンマー、中国、ドイツ、ニュージーランドなど様々な国に関わるブースや催し物があり、たくさんの外国人の方と触れ合う機会があったことはとても嬉しかったです。英語で外国の方に韓国茶のことや活動を伝える場面もあり、いろんな国の人と一緒に触れ合うことのできる、日本の日常にはあまりない素敵な空間でもありました。日本にいながらボランティアもできて、国際交流もできるなんて一石二鳥です！！

ボランティアに参加する時に、いつも思うことがあります。自分は労力を提供して無償で誰かのために何かをするという能動的な側であること以上に、自分自身が必ず何かを学ばせてもらっている、ということ、そして、同じ志を持った仲間に出会うことができるという受動的な側にもいることです。今回もさまざまな発見や学びがありました。何か必ず変化があるんです。私はまた、カンボジアへ行き直接何かをしたい！という気持ちが強くなりました。

大澤さんをはじめ、お世話やフォローをしてくださったスタッフの方々、一緒に活動した参加者の方々、本当にありがとうございました。今回のボランティアをきっかけに、これからも貴団体の活動に参加させていただきたいと思っています。そして、もっとたくさんの新しい仲間に出会えることを願っています。カンボジアの子供たちが教科書を持って楽しそうに授業を受けている姿を思い描きながら、貴団体でできること、個人でできることに取り組んでいきたいです。